



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	スウェーデン語における不変化詞ut についてー意味的分類を中心にー
Author(s)	川崎, 良江; KAWASAKI, Yoshie
Citation	独語独文学研究年報, 33, 1-21
Issue Date	2006-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/18954
Type	departmental bulletin paper
File Information	33-1-21.pdf



スウェーデン語における不変化詞 *ut* について

— 意味的分類を中心に —

川崎 良江

1. はじめに

スウェーデン語には不変化詞結合と呼ばれる用法がある。これは、動詞と不変化詞(句)から構成される表現方法で、不変化詞を組み合わせるにより、動詞単独の意味とはニュアンスの異なる意味を表現できる用法である。これと同様のものは、スウェーデン語と非常に近い関係にある北欧諸語、また英語における *get up*, *stand out* などといった用法 (*verb-particle combination*, *phrasal verb*, *verbal compound* などと呼ばれる) やドイツ語における分離動詞などにも共通点が見受けられる。ここではスウェーデン語の不変化詞結合における不変化詞 *ut* の意味的分類を試みたいと思うが、最初に簡単にはあるが不変化詞結合の特徴について述べたい。

2. 不変化詞結合の特徴

不変化詞結合は以下のように用いられる。

- (1) *Han stiger av bussen.* <彼はバスを降りる>

stiger は動詞 *stiga* の定形で<登る>といった意味である。これに不変化詞 *av* (英.*off*) が組み合わせられると *stiga av* <降りる> という新たな意味を構成する。同じ動詞でも不変化詞を取り替えることでさまざまな意味を表現することが可能である。以下、不変化詞結合について、特徴の概要について簡単に示す。

2. 1. 意味の透明性と語彙化

不変化詞結合では、動詞と不変化詞のそれぞれの意味から容易に理解できるものと、語彙化しているものがある。場合によっては、まったく同じ組み合わせの不変化詞結合でも意味が透明なものと語彙化したものが見受けられる。

- (2) a. *De skjuter upp en raket.* <彼らはロケットを打ち上げる>

b. *Vi måste skjuta upp resan till nästa vecka.*

<我々は旅行を来週に延期しなくてはならない>

(2)a. は動詞 *skjuta* (英.*shoot*) と不変化詞 *upp*(*up*) の組み合わせから意味が想像できるが、(2)b. は語彙化されており、内容を容易には理解しにくい。後述する3. ではこの透明性と語彙化についてさらに触れていきたい。

2. 2. 統語上の特徴

不変化詞結合では(1)や(2)にあるように、不変化詞を動詞の直後に置くのが最も一般的な語順¹⁾で、不変化詞のみを動詞から切り離して前方へ移動することはできない。

(3) a. Han tycker om henne. <彼は彼女が好きだ>

b. *Om tycker han henne.

しかし目的語を文頭に移動させることは可能である。

(3) c. Henne tycker han om. <彼女のことを彼は好きだ>

また、次の例は前置詞句を伴った文である。

(4) a. Nyckeln sitter i i låset. (Norén, 1996:15) <鍵が錠にささったままになっている>

b. *I i låset sitter nyckeln. (Norén, 1996:15)

(4)a.では *sitter i* が不変化詞結合で *i låset* は前置詞句である。この前置詞句のみの移動は容認される。

(4) c. I låset sitter nyckeln i.

その他の統語上の制約の代表的な例としては以下のものがある。例えば *se*<見る>は *ut* と結びつくことで<外を見る>という透明な意味にもなるが、形容詞などと組み合わせると<~のように見える>という意味になる。その際、語順に特徴が見られる。

(5) a. *Såg ut genom fönstret som stod på glänt*: (MDS, 1995:70)

<少し開いた窓から外を見た>

b. *Du ser trött ut*.

<君は疲れているように見える>

(5)a.では<外を見る>の意味で *se ut* が用いられた例である。(5)b.は動詞 *se* と不変化詞 *ut* の間に形容詞 *trött* を挟み、<~のように見える>という意味で用いられている。この用法においては例外的に、形容詞は動詞と不変化詞の間に置かなくてはならない。従って(5)c.の語順は許容されない。

(5) c. **Du ser ut trött*.

ただし、間に挟む語が句や節の形をとる場合は後置される。

(5) d. *Hon ser ut som en mannekäng*.

<彼女はマネキンのように見える>

e. ..., *hon kunde gapa med sin stora mun så att det såg ut som om hon tänkte äta upp Julius*. (MDS, 1995:71)

<彼女は大きな口を開けたので、ユリウスを平らげようとしているかのように見えた>

次に、動詞と不変化詞の間に語を挟む例としては再帰代名詞を伴う場合が挙げられる。た

¹⁾ ただし *inte*, *ju* などの一部の副詞は動詞と不変化詞の間に置く。

Gör inte om det här! <これを繰り返すなよ！>

だし、再帰代名詞は間に挟まれる場合と後置される場合とがある。

(6) a. Maratonlöparen *tog ut sig* totalt på sista milen. (Ording, 1998:123)

<そのマラソン選手は最後の10キロで完全に疲労困憊した>

b. De kunde inte *ta sig ut* ur det rökfyllda rummet. (Ording, 1998:123)

<彼らは煙が充満した部屋から脱出できなかった>

c. Hur *tar* hon *sig ut* i sin nya klänning? (Ording, 1998:123)

<新しいドレスを着たら彼女はどんな風に見えるだろうか?>

(6)は3例とも動詞 *ta* (英. *take*) と不変化詞 *ut* の組み合わせに再帰代名詞 *sig* を伴った例であるが、(6)a.のみ再帰代名詞は後置され、他の2例は間に挟まれている。

2. 3. アクセント

次に、不変化詞結合の大きな特徴としてはアクセントがある。通常、動詞は強勢を取るものだが、不変化詞結合においては動詞は弱勢を取り、不変化詞が強勢を取る(大文字が強勢を取る部分)。

(7) a. De HOPPAR i vattnet. (Bodegård, 1993:10) <彼らは水中で跳びはねる>

b. De hoppar I vattnet. (Bodegård, 1993:10) <彼らは水中に跳び込む>

(7)の2文はアクセントの取り方により不変化詞結合か否かが決まり、それにより意味も変わってくる。(7)a.のように動詞 *hoppa* (英. *hop*) に強勢が置かれる場合には *i* (*in*) は *vattnet* (*water-the*) と結びついて前置詞句を構成する前置詞と見なされる。よって<彼らは水中で跳びはねる>という意味になる。一方(7)b.では *i* に強勢が置かれているため、動詞 *hoppar* と結びついて不変化詞結合 *hoppa i* <跳びこむ>の構成成分であると考えられる。よって<彼らは水中に跳び込む>といった意味になる。

なお、不変化詞結合には不変化詞を動詞の前に接頭辞のように置いて一語で綴るものがある(2. 5. 参照)が、その場合はグラヴ・アクセント(アクセント2)を取る。

2. 4. 綴りの一語化

さらに、不変化詞結合の大きな特徴としては、語形変化の際に、場合によっては一語で綴られることがある、という点がある。不定詞と定形、完了分詞(*supinum*)では分離した形を取るが、現在分詞と過去分詞、また不変化詞結合から派生した名詞や形容詞がある場合はその場合にも一語となる。その場合、不変化詞が語頭に綴られ、不変化詞の強勢は失われて語はグラヴ・アクセント(アクセント2)を取る。例えば不変化詞結合 *föra över* <移動する、運搬する>のそれぞれの語形は以下ようになる。

不定詞 *föra över*²⁾

現在分詞 *överförande*

現在形 *för över*

過去分詞 *överförd/överfört/överförda*

Priserna går sällan ner.

<物価はめったに下がらない>

2) 非分離の *överföra* という形もある。意味は *föra över* と同じ。

過去形	förde över	名詞	överföring <移動, 運搬>
完了分詞	ha fört över	形容詞	överförbar <移動できる, 運搬できる>

2. 5. 分離する不変化詞結合と非分離の不変化詞結合の存在

不変化詞結合には、(A)動詞と不変化詞を分離して用いるものと、(B)不変化詞を接頭辞のように動詞の前に置いて一語として用いるものがある。(A)と(B)の関係は以下のようなものである。

2. 5. 1. (A)(B)両形があり、意味も大差がないもの

- (8) a. Vi *bjuder in* många gäster. <我々は多くの客を招き入れる>
 b. Vi *inbjuder* många gäster. <我々は多くの客を招き入れる>

(8)a.は動詞 *bjuda*<招く>と不変化詞 *in*(英.*in*)との組み合わせを分離させて不変化詞を後置した文(A)で、(8)b.は不変化詞を前置して一語で用いた文(B)である。この場合、意味はどちらも同じであるが、(A)は口語体でよく用いられ、(B)は文語において用いられる傾向がある。ただし、最近では文語においても(A)を用いるのが一般的になりつつあるようである。

2. 5. 2. (A)(B)両形があり、意味に相違があるもの

- (9) a. Pennan har *gått av*. (Ording, 1998: 10) <ペンが折れた>
 b. Presidenten har *avgått* efter skandalen. (Ording, 1998: 10)
 <大統領はスキャンダルの後辞任した>

(9)は a. b.ともに動詞 *gå*(英.*go*)と不変化詞 *av*(*off*)の組み合わせだが、分離形(A)の(9)a.は<折れる>という透明性を保った意味なのに対し、非分離形(B)の(9)b.は<辞任する>という語彙化した意味になっている。このように、(A)と(B)とで意味が大きく変わるものはかなり多い。

2. 5. 3. (A)か(B)のどちらか一方しかないもの

これについては例を示すのが難しい。言葉は常に変化するものであるし、方言などの問題もある。山下泰文著『スウェーデン語文法』では、以下の語は「常に分離する」、つまり非分離形は存在しないとしている(山下, 1990:194)。

falla omkull <倒れる>, *gå hem* <家に帰る>, *resa bort* <旅に出る>, *tycka om* <好む>

次章で示す *ut* の分類リストには、(A)の分離形のみを集めており、(B)は今回は研究対象にできなかった。今後は(B)の非分離形についても考察したいと考えている。

3. 不変化詞 *ut* の意味的分類

不変化詞結合における二番目の成分は *partikel*「不変化詞」(英.*particle*)と呼ばれる。この不変化詞は、前置詞や副詞としても機能するものが圧倒的に多い。中でも方向性を示す意味を持つ場合がほとんどである。

本論文で取り上げる **ut** も副詞としての機能を持ち、「(内部から)外部へ」(英.out)という意味をもともと持っている単語である。本章では、不変化詞結合の成分としての **ut** がどのような意味を持っているのかを明らかにしていきたい。

以下の分類リストでは、このもとの意味である「外部へ」という意味を保つグループ(3. 1.) から出発する。このグループは文例も多く、意味の観点からもさらに細分化できると思われたので、下位分類している。次に「(行動を)やり切る」「徹底的に行う」という意味を持つグループ(3. 2.)、「行為が突発的に行われる」という意味を含んだグループ(3. 3.)、否定的な意味合いを含むグループ(3. 4.)、「徐々に終わりに向かって」という意味を持つグループ(3. 5.)、「偶然ある結果になる」という意味を含むグループ(3. 6.)に分類した。

この意味分類リストを作成するにあたり、今回はスウェーデン語辞典 National-encyklopedins ordbok. 2000. Bokförlaget Bra Böcker. Höganäs. の記述を参考にした。この辞典には不変化詞結合の成分としての **ut** の項目はないため、副詞の **ut** についての記述を用いている。この項目には語例として不変化詞結合が多く出されており(例: *skriva ut uppsatsen på ordbehandlare* <作文をワープロで打ち出す>), 今回の分類のために使用しても問題はないと考えた。この辞典の記述に、自分なりの見解を加えて以下の分類リストを構成している。

前出の辞典での **ut** の記述と、それに対応した今回のリスト番号は以下の通りである。文字の大小は辞典の記述のまま記している。

- ①ある地域、物体など(の内部)から周囲の方向へ向かって。しばしば暗黙のまま。
目標については意識せず、移動自体に重点を置くこともある。
→3. 1. 1. , 3. 1. 2. , 3. 1. 4. , 3. 1. 5.
- ②示された行為、過程などを完成させて。 →3. 2.
- ③量を増加させて。 →3. 1. 6.
- ④(特定の表現において)示された行為などが(すばやく)開始して。 →3. 3.
- ⑤具体的、または抽象的な意味合いにおいて特定の人物、現象などに破壊的な作用を与えて。しばしば完全に。 →3. 4.
- ⑥空間や時間に関する現象において終了に向かって。 →3. 5.
- ⑦(専ら特定の表現において)公共の場で発表して。しばしば感情的・思考的作用を目的として。 →3. 1. 3.
- ⑧(特定の表現において)予測が難しいような出来事に関して結果へ向かって。
→今回は該当例なし
- ⑨(専ら *råka* と構成して)特定の(大抵は否定的な)出来事の推移に関連して現象が影響を受けて。 →3. 6.

上記のうち、③は「量を増加」させるということは、「量や範囲が外部へ向かっていく」という発想から **ut** を用いるようになったと考えられる。よって **ut** の透明性は比較的保たれているとらえて3. 1. のグループに入れた。同様に、⑦は「内輪ではなく、外部へ向かって」というニュアンスから、ここでは3. 1. のグループに下位分類している。ただし、今回の分類は、例文が増

えていくことで、今後変化していく可能性もあるだろう。

リストで用いた例文は、小説などから拾い集めたものである。現時点では、このリストは *ut* の大まかな意味的分類にとどまっており、意味特性に関わるさらなる考察までには至っていない。これは今後の重要課題のひとつである。ただ今回のリストは、まだ完成にはほど遠いものの、不変化詞 *ut* のもつ意味の広がりをつめるための一助になるのではないかと思う。

3. 1. 「(内から)外へ」の意味を保持した *ut*

ut はもともと「ある範囲内から外へ向かって」という意味を持つ単語である。不変化詞結合内で機能する場合も、移動や方向性の意味を持つ動詞とともに用いて「外部へ」という意味を添える役割を果たすパターンが最も多い。その場合、自動詞とも他動詞とも結びつくことができる。これらの不変化詞結合は、すべてではないが、日本語にすると「…出る」または「…出す」という複合動詞で訳出できるものが多い。このグループは例文も多く、その中で *ut* が持つ意味内容も細分化される。以下は「(内から)外へ」の意味を持つ *ut* をさらに意味の観点からグループ分けしたものである。

3. 1. 1. 「出る」の意味を持つもの

まず、日本語で「…出る」と訳せる類のもの、または「(外部へ)出る」という意味合いを持つ不変化詞結合の例を以下に示す。なお、例文の後ろのカッコは出典とそのページ数を表す。

(10) Just när hon skulle gå *ut* ur packrummet hörde hon skriket. (MDS, 1995:284)

〈梱包室から外へ出ようとしたちょうどその時、彼女は叫び声を聞いた〉

gå は〈行く〉(英.*go*)の意味で、*ut* と結びついて単純に〈(中から)外へ出る〉の意味になる。ただし、この組み合わせは英語の *go out* と同様、〈出かける、外出する〉という、ある程度語彙化した意味も持っている。

(11) ..., kanske de gick *ut* till folkparken vid Sickla. (MDS, 1995:20)

〈彼らはシックラのそばの市民公園まで出かけたのだろう〉

(11)では、*gå ut* は単に建物の内部から外部へ移動したということではなく、(ある目的を持って)ある場所へ出かけて行く、という意味を表している。このように、*ut* が〈外出する〉という意味をも持ち得るのは *gå* の他には *fara*〈行く〉、*komma*〈来る〉、*resa*〈旅行する〉、*åka*〈(乗り物に乗って)行く〉などと組み合わせた場合が考えられる。例えば今回リストアップされた例文では以下のようなものが見られた。

(12) Hjördis hade ringt till affären och bett dem komma *ut*, det började bli så vackert i trädgården och så fyllde hon år, men det skulle de ju inte tänka på. (MDS, 1995:309)

〈ヒョルディスは店に電話を掛けてきて彼らにこちらへ出てくるよう頼んだ。庭の草花が美しくなってきたし、自分の誕生日でもあるから、ただしそのことは気にしないで、とのことだった〉

この場合は単に外に出るという意味ではなく、この話者(ヒョルディス)の家へ来る、と いう意味

で使われている。ここではヒョルディスの家が郊外にあるため、街の中心部から出て行って、という意味合いで *ut* が添えられているのではないかと思われる。

このような、比較的単純に「移動する」という意味を持つ動詞の場合は *ut* の語彙化は可能だが、例えば *linka*〈びっこを引く〉, *lomma*〈ゆっくり歩く〉, *tassa*〈忍び足で歩く〉といった動詞と *ut* を組み合わせても〈外出する〉という意味を表すことは不可能だと思われる。

これに加え、今回は「動詞＋不変化詞」ではなく「助動詞＋不変化詞」という組み合わせもいくつか見受けられたが、この組み合わせは *ut* の持つ「(内部から)外部へ」という意味を大きく逸脱しない場合にのみ可能なようである。

(13) *Alla måste ut och titta.* (MDS, 1995:309)

〈みんな外へ出て見ないわけにはいかない〉

この文では動詞ではなく助動詞 *måste* と不変化詞 *ut* が組み合わせられて〈外へ出なければならぬ〉という意味を構成している。ここでは単純に〈(建物の)内部から外部へ出る〉という意味で用いられており、*gå*, *komma* などが省略されていると考えられる。また次のような例も見受けられた。

(14) *Förstod ju att hon kanske inte kunde ut och turnera nu när flickan var liten -*
(MDS, 1995:38)

〈娘が幼い今は巡業に出るのは無理だろうということはわかっていた〉

(14)は助動詞 *kunna* の過去形 *kunde* と不変化詞 *ut* が組み合わせられた例である。この場合は(13)よりも広い範囲の〈外の世界へ〉といった意味を持っており、*gå*, *fara*, *åka* などが省略されていると考えられるが、「(内部から)外部へ」という意味から大きくかけ離れたものではないという点では共通している。

これに対し、後述するような、本来の *ut* の意味からは離れた不変化詞結合、例えば *härda ut*〈耐え忍ぶ〉(*härda*〈耐える〉)といったものについては、動詞が省略された例は見られなかった。また、不変化詞結合に目的語が伴われる場合も動詞の省略は許容されないようである。

紙数の関係上例文は割愛するが、上記に加え、「(内部から外部へ)出る」という意味を持った不変化詞結合を形成する、移動の意味を持つ動詞は、今回は以下のものがリストアップされた:*backa*〈バックする〉, *bryta sig*〈強引に進む, 突き進む〉, *dundra*〈轟音を立てて進む〉, *fara*〈行く〉, *flyga*〈飛ぶ〉, *flytta*〈引っ越す〉, *försvinna*〈消える〉, *glida*〈滑る〉, *gå*〈行く〉, *hasa*〈滑る〉, *komma*〈来る〉, *krypa*〈這う〉, *linka*〈びっこを引く〉, *lomma*〈ゆっくり歩く〉, *läcka*〈漏れる〉, *puta*〈丸くふくらむ〉, *resa*〈旅行する〉, *rulla*〈転がる〉, *rusa*〈ダッシュする〉, *segla*〈帆走する〉, *simma*〈泳ぐ〉, *skjuta*〈打つ, 突く〉, *skvätta*〈(液体が)はねる〉, *skynda*〈急ぐ〉, *springa*〈走る〉, *streta*〈苦勞して進む〉, *strömma*〈流れる〉, *svänga*〈曲がる〉, *tassa*〈忍び足で歩く〉, *tuffa*〈タンタンと音を立てて進む〉, *träda*〈歩く〉, *tränga*〈押しやる〉, *tumla*〈つまづく〉, *tåga*〈行進する〉, *vandra*〈さまよう〉, *välla*〈どっと流れる〉, *åka*〈(乗り物に乗って)行く〉

3. 1. 2. 「出す」の意味を持つもの

次に、日本語で「…出す」と訳せるもの、あるいは「(外へ)出す」の意味を保持した *ut* と結びつく動詞には、例えば(15)のようなものがある。

(15) Jag ska hjälpa dig att *bära ut* det du har, sa han och reste sig. (MDS, 1995:81)

<君の持っているそれを運び出すのを手伝うよ、と彼は言って立ちあがった>

(15)での *ut* は最も基本的なく(建物の内部から)外部へ>という意味を持ち、*bära*<運ぶ>と結びついて<運び出す>という意味を構成している。

また(15)のような例に加え、以下のような *ut* も見つかった。

(16) Till sist orkade hon inte med längre utan *talade ut*. (BAS, 1995:230)

<しまいには彼女は耐えられなくなり、思いを吐露した>

ここでは *tala*<話す>という動詞と結合し、<自分の気持ちを言葉にして表明する>という意味を成している。ここでの *ut* の意味は幾分抽象化してはいるが、「(外へ)出す」という意味内容は保持している。

上記に加え、この「(外へ)出す」という意味の *ut* と結びついた動詞は、今回は以下のものが見つかった:*blåsa*<吹く>、*dra*<引く>、*dryga*³⁾、*frusta*<荒く息をする>、*hälla*<注ぐ>、*hämta*<取って来る>、*hänga*<掛ける>、*jaga*<狩る>、*klämma*<つまむ>、*locka*<誘う>、*pusta*<息を吐く>、*ropa*<叫ぶ>、*räcka*<達する>、*se*<見る>、*skicka*<送る>、*skrika*<叫ぶ>、*slungas*<投げられる>、*släpa*<引く>、*släppas*<放たれる>、*spotta*<(つばを)吐く>、*stjälpa*<倒す>、*sugas*<吸われる>、*sändas*<送られる>、*ta*<取る>、*tas*<取られる>、*titta*<見る>、*vädras*<換気する>、*välta*<倒す>

上記の語彙群のうち *se*<見る>は *ut* と結びつくことで<外を見る>というそれぞれの単語の意味を組み合わせたままの意味になるが、形容詞などと組み合わせると<～のように見える>という意味を成す。これは2. 2. ですすでに述べている。

3. 1. 3. 「公衆に、不特定多数の人に向けて」の意味を持つもの

次に、「(内から)外へ」という内容から大きくかけ離れてはいないが、この意味に加えて *ut* が「公に、公衆に向かって」という意味合いを含んでいる不変化詞結合の例を挙げる。

(17) Kanske dörren öppnades, kanske hon fick *dansa ut*, virvla runt en scen igen. (MDS, 1995:39)

³⁾ *dryga* という動詞は、ほぼ常に *ut* とともに用いて<捻出する>という意味をなす。

När hjälpbehovet var stort men inkomsterna små försökte de *dryga ut* kassorna genom att ordna fester och basarer. (BAS, 1995:170)

<援助要請の申し込みは多いが収入が少ないような場合は、パーティーやバザーを開催して資金を捻出しようとした>

〈もしかしたら扉が開かれるかもしれない,もしかしたら彼女は観客の前で踊り,再び舞台上でぐるぐると回ることができるかもしれない〉

(17)は *dansa*〈踊る〉と組み合わせられた例で,〈観衆の面前で踊る,踊りを披露する〉といった意味になる。

(18) *..., ingen vind vaggade de begagnade plagg som hängts ut till försäljning.*
(MDS, 1995:196)

〈売り物用に外に陳列された古着をなびかせる風は吹いていなかった〉

(18)は *hängas*〈掛けられる〉とともに用いられ,ここでは〈(売り物として)陳列する,掛けてある〉という意味になっている。(19)(20)は *placera*〈置く〉, *ställa*〈置く〉と組み合わせられているので「テーブルなどに置いて展示する」という意味だが,「商品として陳列する」という内容は(18)と共通している。

(19) *Emelie och Ingeborg fick hjälpa till med att packa upp och placera ut de varor som skulle exponeras i lokalen.* (BAS, 1995:263)

〈エメリエとインゲボリは売場に陳列する予定の商品を包装し,並べるのを手伝った〉

(20) *Underligt att en fin bokhandel ställde ut sådant.* (MDS, 1995:101)

〈立派な書店がこんなものを陳列するとは不思議だ〉

(21)は *rycka*〈ぐいと動く〉との組み合わせだが,ここでは「勢いよく出て行く」ではなく「職務遂行のため赴く」といった意味で用いられている。

(21) *Läkare placerades på polisstationerna för att vara redo att rycka ut dygnet runt.* (MDS, 1995:237)

〈医師は警察署に配置され,24時間態勢で出動する準備ができていた〉

(22)は *sända*〈送る〉とともに用いた例である。*sända ut*には〈(人を使いなどに)送り出す〉といった意味もあるが,ここでは〈世に送り出す〉の意味で用いられている。

(22) *Sven Hedin sände ut sin skrift, "Ett varningsord":* (MDS, 1995:176)

〈スヴェン・ヘディンは著作『警告』を発表した〉

(23)の例は *sättas*〈置かれる,据えられる〉との組み合わせで〈掲示する,発表する〉といった意味である。

(23) *Lapparna borde sättas ut i hamnen på väl synlig plats.* (BAS, 1995:250)

〈メモは港の,目に付きやすい場所に掲示されることになった〉

3. 1. 4. 「強制的に外側へ」の意味を持つもの

このグループは3. 1. 2. と意味的には重複する部分もあるが,3. 1. 2. では単純に「外に出す」という意味であったのに対し,このグループは「強制的に自分のテリトリーから外へ」といった意味を持つ不変化詞結合の例が含まれている。

(24) *Henne hade han kastat ut.* (MDS, 1995:217)

〈彼女は彼が追い出したのだった〉

(24)では *kasta*〈投げる〉と組み合わせている。*kasta ut*には3. 1. 2. に含められるような,単純

に<ものを放り出す, 放り投げる>の意味もあるが, ここでは<自分の家から追い出す>という意味になっている。この点は *köra*<追いたてる, 駆りたてる>と組み合わせた(25)や *sparka*<蹴る>と組み合わせた(26)も同様である。

(25) Sedan Erik *kört ut* henne från rummet hade hon bara haft David att gå till.

(MDS, 1995:221)

<エーリックが彼女を部屋から追い出してからは, 彼女が行くあてはダーヴィドしかなかった>

(26) Att hålla sig kvar i det socialdemokratiska fadershuset trots att många

nog ville *sparka ut* de besvärliga ungsocialisterna och i stället få en

följsammare ungdomsrörelse. (MDS, 1995:19)

<多くの者が厄介な若い社会主義者を追い出して代わりに従順な若者集団を取り込みたがっているにもかかわらず, 社会民主主義の我が家に留まるということ>

(27)は *motas*<閉鎖させる>という語との組み合わせである。

(27) Hon måste *motas ut*, kom igen flera gånger, stod i dörren och skrek:

Rövslickerska! (MDS, 1995:43)

<彼女は出入り禁止にされたが, 何度も戻って来ては戸口に立って叫んだ:ごますり女!>

3. 1. 5. 「自分から相手への所有権の譲渡」の意味を持つもの

このグループの例文は, 3. 1. 4. 同様「自分のテリトリーから外へ」という意味を含んでいるが, 3. 1. 4. ではとにかく対象を「強制的に範囲外へ追いやる」といった内容であったのにならべ, ここでは「所有権・権利を移行させる」という意味を含んでいる。

(28) Försäljare *bjöd ut* Revolt och Stormklockan och sålde röda

demonstrationsrosor och nejlikor. (IFS, 1995:31)

<商人は『Revolt』と『Stormklockan』を売りに出し, デモ用のバラとカーネーションを売った>

(28)は *bjuda*<提供する>という動詞との組み合わせで<売りに出す>という意味を形成している。

(29) Måste *dela ut* tidningarna, måste komma i tid - (MDS, 1995:80)

<新聞を配達しなければならない, 時間通りに戻らなければならない>

(29)では *dela*<分ける>と組み合わせで<配達する, 分配する>という意味になる。

(30) August förklarade sig villig att satsa en del för starten och *låna ut* mer om det behövdes. (MDS, 1995:232)

<アウグストは開業用の資金を一部出資し, 必要ならもっと資金を貸してもいいと喜んで説明した>

(30)では *låna*<貸す, 借りる>と結びついて<貸し出す>という意味で用いられている。

(31) Nej, det var inget att tänka på, Emelie skulle aldrig *lämna ut* sprit till dem, inte ens om hon tjänade på det. (IFS, 1995:18)

〈いや、それは考えられない、エメリエは決して酒を彼らに提供するなどということはない、たとえそれが彼女の商売だったとしてもだ〉

(31)の *lämna* は〈残す〉の意味だが、*ut* とともに用いて〈渡す、提供する〉の意味になる。

(32) Om Johan fick veta vem som var far till Gunnar kunde han börja trakassera August och försöka *pressa ut* pengar. (BAS, 1995:324)
〈グンナルの父親が誰か知ったら、ヨーハンはアウグストにしつこく迫り、金を巻き上げようとしただろう〉

(32)の *pressa* は〈押す〉の意味で、*ut* と合わせて用いて〈(金などを)無理やり出させる〉という意味になっている。

3. 1. 6. 「範囲を広げる」「増加させる」という意味を持つもの

このグループの不変化詞結合で用いられる *ut* は、ともに用いる動詞の意味を強める、または増幅させる機能を担っており、結果として「範囲を広げる」「増加させる」といった意味合いになる。

(33) Kartan *breddes ut* över sängen. (MDS, 1995:253)
〈地図がベッドの上に広げられた〉

(33)での *ut* は *bredas*〈広げられる〉と用いて動詞の意味を強めるとともに、「きちんと、最後まで広げる」といった完了の意味を加味している。その点では後述する3. 2. のグループに入るとも考えられる。以下は *ut* が「増加させる」「範囲を広げる」の意味を持った不変化詞結合の例である。

(34) Eller om han ångrat sig nu när strejken *dragit ut* på tiden. (MDS, 1995:128)
〈それともストライキが延長した今では彼は後悔したのか〉

(34)は *dra*〈引く〉との組み合わせで、〈延長する〉という意味になっている。

(35) Bakpå fanns ett reservhjul och en bagageställning som kunde *fällas ut*. (MDS, 1995:309)
〈後部にはスペアタイヤと広げることのできるトランクがあった〉

(35)は *fällas*〈倒す〉とともに用い、〈(たたんであるものを)広げる〉といった意味である。

(36) ..., Åsögatan som förr *klättrat ut* mot bergskanten hade sänkts och breddats och ... (IFS, 1995:56)
〈以前は山裾まで伸びていたオースー通りは掘り下げ、広げられ…〉

(36)の例文は *klättra*〈登る〉との組み合わせである。ここでは道路が(町よりも高度のある)山の方まで伸びていた、という表現のため *klättra* とともに用いられている。

(37) a. *Lade ut* madrasserna och filtarna och knaprade på sin sockerrått medan hon väntade. (IFS, 1995:17)

〈彼女はマットレスと毛布を広げ、砂糖菓子をかじりながら待っていた〉

b. Ena sidan av gatan hade *lagts ut* till park där nya späda träd skyddades av träräcken. (MDS, 1995:19)

〈通りの片面は幼木を木柵で囲った公園に至るまで延長された〉

(37)はどちらも *lägga*〈置く〉と一緒に用いた例である。(37)a.では意味は(33)とほぼ同じである。(37)b.では〈延長する〉の意味で用いられている。

(38) *Hon sträckte ut handen till adjö och han tog den, kysste den.* (MDS, 1995:69)

〈彼女は別れの挨拶のため手を伸ばし、彼はその手をとってキスした〉

(38)では *sträcka*〈伸ばす〉とともに用いており、*ut* は動詞の意味を強める、もしくは方向性を示すニュアンスを添えていると考えられる。

(39) *Fanor och standar vecklades ut, lyste med sina våldsamt utopiska paroller:*
(BAS, 1995:163)

〈旗とポールが広げられると暴力的にユートピア的なスローガンが輝いた〉

(39)では *vecklas*〈折る〉とともに用いており、〈折りたたんであったものを〉広げる〉という意味になる。

(40) *Dessa som bara genom att leva och arbeta blev ett hinder för de yngre, som liksom fyllde ut världen så att det inte fanns plats för dem som kom efter.*
(IFS, 1995:66)

〈ただ生きて労働することで若者の障害となっている者たち、あたかも彼らが世界にあふれているせいで後から生まれてくる者たちの居場所がなくなっているようだ〉

(40)の文では *ut* は *fylla*〈満たす〉とあわせて用いられており、〈ぎゅうぎゅうにする、いっぱいにする〉といった意味を構成している。

(41) *Försiktigheten bjöd att han drev firman i mindre skala, inte lät den svälla ut för mycket.* (MDS, 1995:26)

〈用心深さのために彼は会社の規模を縮小し、あまり増大しすぎないようにした〉

(41)は *svälla*〈ふくらむ、腫れる〉とともに用いた例である。ここでは *ut* がつくことで〈必要以上に、度を越してふくらむ〉といった否定的なニュアンスになっている。

(42) *Men oftast var allt så låst och fastställt, bara att följa uppritade mönster, fanns ingen möjlighet att sväva ut, hitta på.* (MDS, 1995:34)

〈でも大抵はすべてがきっちりと決められており、ただ型通りの模様をたどるだけで想像力をふくらませたり新しいものを作ったりする余地はなかった〉

(42)は *sväva*〈浮く〉との組み合わせで、〈遠くまで漂って行く〉といった意味だが、ここでは〈自由に想像力をふくらませる〉という意味で用いられている。

(43)では *breda sig*〈伸びる〉という再帰動詞(*sig* が再帰代名詞)と *ut* が組み合わせられており、この例文では〈体を伸ばしてくつろぐ〉といった意味で用いられている。

(43) *Hon tog emot dem litet trumpet men lämnade plats vid bordet där de fick breda ut sig.* (BAS, 1995:244)

〈彼女は彼らを少々不機嫌な様子で迎え入れたが、みんなが体を伸ばしてくつろげるようにテーブルのあたりのスペースを譲った〉

ところで再帰動詞を用いた不変化詞結合の場合、2. 2. で述べた通り、不変化詞が再帰代名詞の後にくるパターンと、動詞と再帰代名詞の間に不変化詞が入るパターンとがある。以下の例では、*ut* が最も基本的な「外へ」の意味で用いられる場合は再帰代名詞の後に *ut* が置かれ、それ以外の、多少なりとも *ut* を語彙化して用いる場合には再帰代名詞の前に置かれるという傾向が見られた。(43)は *ut* が再帰代名詞の前に置かれた例だが、同様のものを(44)に示す。

(44) *Sträckte ut sig på sängen en halvtimme, kunde inte somna, försökte inte heller.*
(MDS, 1995:103)

〈半時間ほどベッドで体を伸ばしたが、眠れなかった、また眠ろうとしなかった〉

(44)では *ut* は再帰動詞 *sträcka sig*〈伸びる〉とともに用いられている。ここでは(43)と同様〈体を伸ばしてくつろぐ〉という意味で、*ut* も同様に再帰代名詞の前に置かれている。

一方、(45)の不変化詞結合は *dra sig*〈移動する〉と用いて、〈(内側から外側へ)飛び出す〉という意味で、*ut* は後置されている。

(45) *Hon drog sig ut ur vimlet, ...* (MDS, 1995:189)

〈彼女は人ごみの中から飛び出した〉

今回は、(44)と同じ *sträcka sig* との組み合わせではあるが *ut* が後置されている例文も見つかった。

(46) *Samma gata som sträckte sig ut till berget där hon bott som barn, ...*
(MDS, 1995:89)

〈彼女が幼い頃住んでいた山まで続くあの同じ道〉

ただし(46)では、*ut* は前置詞句 *till berget* (英. *to mountain-the*)と結びつく副詞と考えることも可能であろう。その場合は〈山のある郊外まで〉といった意味合いになる。

3. 2. 「行動を完了させる」「形にする」「徹底的に行う」という意味を持つもの

このグループ以降は、*ut* は「外へ」の意味からは離れていく。このグループの *ut* は「行動を完了させる」「形にする」「徹底的に行う」といった意味を含んでいる。

(47) *Men snart kom jublet, det steg och blommade ut för fullt i körens väldiga rop:*
(BAS, 1995:258)

〈しかしまもなく祝福の時がやってきた、それは盛り上がり、コーラスの大きな声中で最高潮に達した〉

(47)は *blomma*〈開花する〉と組み合わせて〈満開になる〉という意味になるが、ここでは抽象的な〈最高潮に達する〉という意味で用いられている。

(48) *Blåste ut ljuset, lyssnade efter råttornas gnagande och den lungsjukes hostningar i rummet bredvid.* (BAS, 1995:215)

〈明かりを吹き消し、ネズミがどこかをかじる音や隣室の肺を病んだ者の咳き込む音などを聞いていた〉

(48)は *blåsa*〈吹く〉と組み合わせた例である。*blåsa* は〈(息を)はき出す〉という意味にもなり、そ

の場合は3. 1. 2. に含まれるが、ここでは<ろうそくなどの明かりを>吹いて消す>という意味になっている。

(49) Gunnar sög på sin pipa, fann att den *bränt ut*. (IFS, 1995:96)

<グンナルはパイプを吸ったが、もう燃え尽きてしまっているのに気づいた>

(49)は *bränna*<燃える>と用い、燃えるという行為が完了する、すなわち<燃え尽きる>という意味合いになっている。

(50) Som om någon dött, som om allt som varit en gång måste *raderas ut*.

(MDS, 1995:259)

<誰かが死んでしまったような、一度は存在したものすべてを消し去らなければならぬかのようだった>

(50)は *raderas*<消される>とともに用いており、これも *ut* を足すことで完了の意味が添えられ、<消し去る、完全に消す>といった意味になる。

(51) Några år till och människorna som nu gick omkring på gatorna skulle vara borta, leva kvar som minnen en tid, sedan *suddas ut* och helt försvinna.

(IFS, 1995:150)

<何年も経てば、今この通りを歩いている人々も死ぬだろう、死んでしまえば記憶にとどめられても、やがて消し去られてすっかり消滅するのだ>

(51)では *suddas*<消す>が *ut* を伴って<消し去る、完全に消す>といった意味になる。

(52) Hon hade *gått ut* åttonde klass för snart ett år sedan. (IFS, 1995:179)

<彼女は一年近く前に8年生を卒業していた>

(52)は *gå*<行く>との組み合わせの例である。*gå ut* は3. 1. 1. にあるように<外に出る><外出する>という意味もあるが、(52)の意味は<卒業する>である。

(53) När Gunnar *lärt ut* skulle han komma till Bodins kontor, sa August.

(MDS, 1995:30)

<グンナルが卒業したらボディーン社へ来た方がいい、とアウグストは言った>

(53)は *lära*<教える>に完了の意味が加えられ、(52)同様<卒業する、学習を終了する>という意味になっている。

(54) Men snart skulle bron *bytas ut* mot en ny, den skulle bli klar i god tid till den stora utställningen. (BAS, 1995:248)

<しかし橋はまもなく新しく交換され、大博覧会に十分間に合うように完成する>

(54)は *bytas*<替えられる>と用いた例で、<交換される、取りかえられる>という意味である。

(55) Gunnar lyssnade, funderade, drog upp en anteckningsbok och räknade, försökte *finna ut* vad det skulle kosta med hyra och anställda och allt som skulle till. (MDS, 1995:232)

<グンナルは聞き、考えてメモ帳を取り出すと計算し、賃貸料や従業員などにかかる諸費用がどの程度になるか算出しようとした>

(55)では *finna*<見つける>と組み合わせている。<解答を出す>といった意味である。

- (56) Någon gång skulle han ändå be Emelie komma hem och då riktigt *fråga ut* henne om hur det gick för Olof. (BAS, 1995:249)
 <彼は、それでもいつかエメリエを家に呼んで、ウーロフの様子についてきちんと聞き出すつもりだった>
- (56)は *fråga*<尋ねる>との組み合わせで、<いろいろ尋ねて知りたい答えを引き出す>という意味になる。
- (57) Då hade han kanske lättare kunnat *fundera ut* någon lämplig sysselsättning för honom när skolan slutade i vår. (IFS, 1995:174)
 <学校を卒業する春には何か彼に見合った仕事を考えてやれただろう>
- (57)は *fundera*<考慮する>と組み合わせた例で、<考慮の結果ある考えに達する、案出する>といった意味である。
- (58) Man hade nyligen *fått ut* sill på livsmedelskorten. (MDS, 1995:181)
 <最近配給券でニシンを入手していた>
- (58)は *få*<得る>とともに *ut* を用いた例で、<獲得する>という意味になる。
- (59) Sög i sig självföraktet, sköjde ner det med sprit, *grät ut* det i famnen på flickan som äcklad och irriterad försökte befria sig från honom. (BAS, 1995:187)
 <自分を卑下しながらそれを酒で流し込み、愛人の抱擁に包まれて泣き明かした。その愛人はうんざりしながら何とか彼から逃れようとしているのだった>
- (59)では *gråta*<泣く>とともに用いられている。*ut* を添えることで<気の済むまで泣く、泣き明かす>という意味になる。
- (60) Hon hade försäkrat Gunnar att hon *hittade ut* själv. (MDS, 1995:263)
 <彼女はグンナルに、自分一人で行けるから、と保証した>
- (60)は *hitta*<見つける>が *ut* と組み合わせられている。これで<行き方を見出す、目的地への道がわかる>といった意味になる。
- (61) Hon satt länge vid fotogenlampan på kvällen, försökte *lista ut* de melodier hon inte kände till förut, gnola in texterna. (MDS, 1995:70)
 <彼女は夜中、オイルランプのそばに長いこと座って聞いたことのないメロディーをリストアップして、歌いながら覚えた>
- (61)は *lista*<リストを挙げる>とともに用いており、<(候補すべてを)リストに挙げる>という意味である。
- (62) Staden hade kommit närmare, det gick lättare att ta sig ut och in nu sedan en flottbro *lagts ut* mellan Stora och Lilla Essingen. (MDS, 1995:233)
 <町は近くなった。ストーラ・エッシンゲンとリッラ・エッシンゲンの間に浮橋が架けられてからは町への出入りが楽になった>
- (62)は *läggas*<置かれる>とともに用いられ、ここでは<(橋が)渡される>という意味になっている。
- (63) Tyra hade med sig ett urklipp och *pekade stolt ut* sina pojkar en söndagskväll

på Erstagatan. (IFS, 1995:113)

<ある日曜の晩、エースタ通りにチューラが切り抜きを持って来て、自慢気に息子を指差した>

(63)は *peka*<指差す>と組み合わせられており、<(ある決まった目的を)指し示す, 指摘する>の意味である。

(64) Det pratades förresten om att militärbefäl *placerat ut* kulsprutor på strategiska platser i staden och ... (MDS, 1995:186)

<ところで軍司令部が市内の戦略的な位置に機関銃を配置したと噂されていた>

(64)は *placera*<置く>との組み合わせで、動詞の意味に完了の意味が加えられ、<配置する, 設置する>といった意味合いになる。

(65) Jenny fick några gamla trassliga garnhävror i tapisseriaffären, *redde ut* dem tillsammans med Beda. (MDS, 1995:55)

<イエニーは生地屋で古いもつれた糸束をもらってくると、ベータと一緒にそれらをきれいにほぐした>

(65)は *reda*<梳かす>とともに用いて、<(もつれたものを)ほぐしてきれいにする>という意味になっている。

(66) Förr skulle hon väl ha oroat sig, undrat vad han ville och försökt *räkna ut* om det fanns något att klaga på. (MDS, 1995:40)

<以前なら彼女は不安になり、彼はどうしたいのか訝って、何か文句をつけられるところはないただろうかと計算しようとしただろう>

(66)は *räkna*<数える>と組み合わせで<計算する, 算出する>の意味で用いられている。

(67) a. Rotemannen *skrev ut* en blankett,... (MDS, 1995:83)

<その役人は用紙にすべて記入すると...>

b. - men det var onödigt att krångla eftersom Max redan *skrivit ut* texten. (BAS, 1995:250)

<マックスがすでに歌詞をタイプしてしまっていたので、事をややこしくすることもなかった>

(67)は *skriva*<書く>とともに用いた例が2つあるが、(67)a.は<書き入れるべき箇所にすべて記入する>といった意味で、(67)b.は<(タイプライターで)打ち出す>の意味である。

(68) Han borde ha tagit i, *skällt ut* henne, tagit dumheterna ur henne. (MDS, 1995:113)

<彼は介入して彼女を叱り飛ばし、愚かな考えを叩き出してしまふべきだった>

(68)は *skälla*<叱る>と組み合わせられており、<叱り飛ばす>といった意味になる。

(69) Söndersupen, trött och eländig kom Arthur ibland tillbaka till Paradiset för att *spy upp och sova ut*. (BAS, 1995:294)

<ぐでんぐでんになるまで飲み、疲れぼろぼろになってアルトゥールはパラディーセツトに帰って来て、すっかり吐いて眠りたいだけ眠っていくことがあった>

(69)は sova<眠る>とともに用いられており、<十分な睡眠をとる>という意味である。

(70) om hon bara fick *spela ut*, ta i för fullt. (MDS, 1995:71)

<彼女が演技切り、精一杯やらせてもらえたら>

(70)は *spela*<演じる>との組み合わせの例で、<持てる力をすべて発揮して演じる>といった意味である。

(71) Jenny slog sig ner i akterna och han *stakade ut* i det ogenomskinliga vattnet. (BAS, 1995:318)

<イエニーは船尾に腰を下ろすと、彼はにごった水の中に棒で印をつけた>

(71)は *staka*<棒で線を引く、印をつける>という意味で、*ut* はやはり完了の意味を添えているのではないかと考えられる。

(72) De nyfikna som tagit sig fram innan spärrarna *satts ut* var inte många trots det strålande vädret. (MDS, 1995:104)

<素晴らしい天気にもかかわらず、通行止めが設置される前に入りこんだ野次馬は多くなかった>

(72)は *sättas*<置かれる>とともに用いて<設置する>といった意味になる。

(73) Var det därför som hon *tänkte ut* den ena planen efter den andra, försökte drömma drömmar? (MDS, 1995:17)

<だから彼女は次から次へと計画を思いつき、夢見ようとしているのだろうか?>

(73)は *tänka*<考える>と組み合わされており、<考えつく、案出する>という意味である。

(74) Hon kunde inte *vaka ut* honom längre utan somnade, ... (BAS, 1995:209)

<彼女は彼を最後まで見張ることはできずに眠ってしまった>

(74)は *vaka*<見張る>とともに用いられている。<見張り切る、最後まで見張る>の意味である。

(75) Hon *vaktade* tåligt *ut* honom. (MDS, 1995:160)

<彼女は辛抱強く彼を監視しつづけた>

(75)は *vakta*<見張る>との組み合わせで、意味は(71)とほぼ同じである。

(76) Hon hade *valt ut* de lättare husen, blev fortare färdig. (MDS, 1995:80)

<彼女は楽な家を選び出し、みんなより早く終わった>

(76)は *välja*<選ぶ>と組み合わされており、<選び抜く>といった意味になる。

(77) Nu när han inte måste upp tidigt varje morgon orkade hon sällan *vänta ut* honom. (BAS, 1995:245)

<彼が毎朝早起きする必要がなくなった今では、彼女はめったに彼を待つことができなかつた>

(77)は *vänta*<待つ>とともに用いており、<(相手が)来るまで待つ>といった意味である。

3. 3. 「行為や動作がすばやく行われる」という意味を持つもの

このグループにおける *ut* は、3. 2. の「完了」に共通する部分もあるが、それに加えて「行為や動作がすばやく、突発的に行われる」という意味も含んでいる。今回採取した例文を以下

に挙げる。

(78) Gå nu och gör vad som kan göras innan eländet *bryter ut*. (MDS, 1995:113)

<ひどいことが起こる前にとにかく行ってできることをやりなさい>

(78)では *bryta*<割れる, 壊れる>とともに用いて<突発する>という意味を形成している。

(79) *Bärta kom raglande hem, Johan svor och för ut över Gunnar*. (BAS, 1995:246)

<ベルタは千鳥足で帰宅し, ヨーハンは悪態をついてグンナルに飛びかかった>

(79)では *fara*<行く>との組み合わせで用いられている。*fara ut* には3. 1. 1. の<外へ出る, 外出する>の意味もあるが, ここでは<飛びかかる, 攻撃する>という意味である。

(80) *Några gnistor slog ut, glänste till i det mörka rummet*. (MDS, 1995:219)

<火花が飛び散り, 暗い部屋の中で光を放った>

(80)は *slå*<打つ>とともに用いられており, <急激に飛び出す, 突き出る>といった意味である。

(81) ... och så *störtade ut* med ett skrik? (MDS, 1995:71)

<そして叫び声とともに飛びかかったら?>

(81)は *störta*<落ちる, 倒れる>と組み合わせしており, <急に飛びかかる, 飛び出す>という意味になっている。

3. 4. 「破壊的な作用を与える」という意味を持つもの

このグループの *ut* の場合, 「完了」の意味ととらえられなくもないが, 単なる「完了」ではなく否定的な意味も伴っており, 「もう後戻りできない(または取り返しがつかない)ところまで進んでしまっている」という意味を持っている。

(82) *Er far - var det trettiofem han hann bli innan samhället slitit ut honom?*

(MDS, 1995:112)

<君たちの父親 — この社会にぼろぼろにされたとき, 彼は35歳にもなっていなかったらう?>

(82)は *slita*<すり減る>との組み合わせの例で, <(取り返しがつかないほどに)酷使する>といった意味合いである。

(83) *Han ville måla, misskötte sig, slet ut sig själv*. (MDS, 1995:70)

<彼は描きたかった, それで健康を顧みずに体を酷使した>

(83)は(82)の再帰動詞 *slita sig*<酷使する>を用いた例である。2. 2. で述べたように, ここでも *ut* は再帰代名詞の前に置かれている。

(84) *En som tydligen lyckats äta ut sin välgörare ur företaget*. (BAS, 1995:280)

<奴は明らかに会社の後援者を食い物にすることに成功したのだ>

(84)は *äta*<食べる>とともに用いられている。ここでの *ut* は否定的な意味を加味しており, <全部食べる>というよりは<食い尽くす, 食い物にする>という意味を形成している。

(85) *I århundraden hade överklassen sugit ut de fattiga och...* (MDS, 1995:214)

<何百年にもわたって上流階級は貧者を吸い尽くし…>

(85)は *suga*<吸う>との組み合わせで, 意味は(84)とほぼ同じである。

3. 5. 「終わりに向かって」「徐々に尽きて」という意味を持つもの

このグループにおける *ut* は「終わりに向かって」「徐々に尽きて」という意味を添えるものである。3. 2. では *ut* は「完了」の意味を持っていたのに対し、このグループでは行為が完了するまでの「過程」に焦点をあてていると考えられる。

(86) Men så länge strejken pågick var det ju inte att tänka på, då fick man bara försöka *hålla ut*. (MDS, 1995:124)

<しかしストライキが続く間は考えるべきことではない、今はただ耐えるのみだ>

(86)では *hålla*<保つ>とともに用いて<耐える, 辛抱する>といった意味になる。

(87) I sjutton år hade hon *härdat ut*, nu ville hon lämna honom. (MDS, 1995:45)

<17年間耐え忍んできたが、ついに彼女は彼のもとを去ることにした>

(87)は *härda*<耐える>との組み合わせで<何とか耐え続ける>といった意味合いである。

(88) Och visst ville hon, hade ju *längtat ut* hela tiden. (MDS, 1995:68)

<もちろん彼女はそうしたかった、今までずっと待ちわびてきたのだから>

(88)は *längta*<心待ちにする>と組み合わせ用いており、<(長期間にわたって)待ち続ける>といった意味になる。

(89) a. ..., i några av trädgårdarna brände man löv och grå rökmoln vältrade upp och *tunnades* sakta *ut* till dis. (MDS, 1995:309)

<庭では落ち葉を焼いているところもあり、灰色の煙が上がって、やがてゆっくとも

やのように薄くなっていった>

b. Men några hade åkt i förväg och nu *tunnades* karavanen *ut* allt mer.

(IFS, 1995:123)

<しかし先に帰った者もいたので今では人数がますます減っていた>

(89)は *tunnas*<薄くなる>とともに用いており、<(量・数などが)どんどん減っていく>といった意味合いである。(89)a.では<煙が薄くなっていく>、(89)b.では<人数が減っていく>という意味で用いられている。

3. 6. 「偶然ある結果になって」という意味を持つもの

ここでの *ut* は「偶然ある結果になって」という意味を持つ。

(90) Så du inte *råkar ut* för nånting, att betala för en unge till exempel.

(IFS, 1995:164)

<おまえが例えば養育費を払うとか、そんなことに出くわさないように>

(90)は *råka*<会う>と組み合わせられており、<ばったり出会う, 出くわす>という意味になる。このグループは今回は1例しか見つかっていないが、今回分類の参考にした辞典でも、このグループには「専ら *råka* と構成して」との但し書きがされている。

参考文献

- Bodegård, Anders: 1993. Tänk efter. Almqvist & Wiksell. Stockholm.
- Engelsk-svenska ordboken. 1991. Norstedts. Första upplagan.
- Nationalencyklopedins ordbok. 2000. Bokförlaget Bra Böcker. Höganäs.
- Norén, Kerstin: 1996. Svenska Partikelverbs Semantik.
Acta Universitatis Gothoburgensis. Göteborg.
- Ording, Hans Holmgren: 1998. Se upp! Svenska partikelverb. Natur och Kultur.
Stockholm.
- Svenska Akademiens ordlista över svenska språket. 1998. Tolfte upplagan.
Norstedts ordbok.
- Teleman, Ulf/ Hellberg, Staffan/ Andersson, Erik: Svenska Akademiens grammatik.
3 Fraser. 1999. Norstedts Ordbok. Stockholm.
- 山下泰文:1990. スウェーデン語文法. 大学書林
- (ut のリストで用いた資料)
- BAS = Fogelström, Per Anders: 1995. Barn av sin stad. Bonnier pocket. Trondheim.
- IFS = Fogelström, Per Anders: 1995. I en förvandlad stad. Bonnier pocket. Trondheim.
- MDS = Fogelström, Per Anders: 1995. Minns du den stad. Bonnier pocket. Trondheim.

(北海道大学大学院文学研究科博士後期課程)